

## 埋蔵文化財調査センター・北野天神社見聞

2023.2.8 記 池田 衛

- \*実施日：2023年2月2日(木)
- \*場所：埋蔵文化財調査センター・北野天神社
- \*集合：小手指駅東口📍 9:10
- \*参加者：25名

### 1. 埋蔵文化財調査センター： \*9:30~10:20

- 1) 埋蔵文化財調査センターについては、平成 29(2017)年11月に「発掘された埋蔵文化財を通じ所沢の歴史を知ること」および「板碑の拓本を通じ所沢の歴史を知ること」を目的に訪問しています。

今回は特に厳冬期ということで、屋内での行事として企画されましたが「埋蔵文化財の調査」が多忙で「板碑の拓本」はお受けできないとの回答。1時間余の見学では間が持てないので、急遽「北野天神社」訪問を追加しました。

- 2) 埋蔵文化財調査センターの特別なお計らいで、ご多忙のところ発掘調査専門員安藤様が50分の時間を割いて、構内展示物の解説を頂きました。

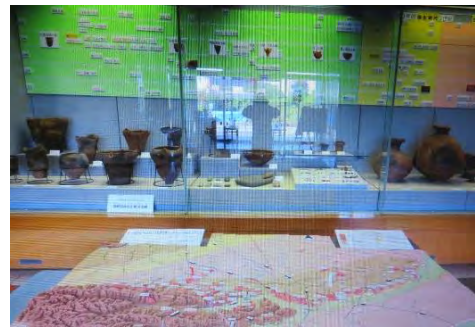
玄関ホールに設けられた「市内遺跡分布」の展示模型の解説を皮切りに、古代から始まる展示ケース内の遺跡の説明を皮切りに、年代順にオープンに並べられた展示物の説明を受けました。

次いで、1階にある最新発掘展示室に案内されました。近年発掘され修復された土器が発するオーラに圧倒されました。質問自由ということで様々な質問がなされました。殆どの発掘物はバラバラで、原型を留める発掘でも、殆どが「底抜け」とのことでした。

年代を追って2階も、近代までの発掘物の説明がなされました。ガラス越しに復元作業を行っている女性たちの作業風景が伺えます。



会場での安藤様の解説(白マスク)



1F  
展

市内遺跡分布「展示模型」

2. **小手指ヶ原古戦場碑** : \* 10:32~10:35

埋蔵文化財調査センターから北野天神社に向かう道筋は、旧鎌倉街道の小手指道です。所沢市の市域にはもう二つの入間川道と堀兼道があります。

古戦場碑のある場所は、元弘 3(1333)年に新田義貞が鎌倉攻めをしたとき、幕府軍と最初に衝突した合戦の跡地です。

古戦場碑に隣接する小高い丘は、義貞が源氏の象徴である白旗を掲げ、本陣を設置した場所で白旗塚とよばれています。丘の上には数年前までは、「白旗塚碑」等が設置されていましたが管理上の問題で、北野天神社境内に移設されました。



小手指ヶ原古戦場碑(1969年)



現在 白旗塚頂部に設置されていた白旗塚碑(2018年)



\*所沢市生涯学習推進センター提供

3. **北野天神社** : \* 11:00~11:55

1) 北野天神社については、平成 25(2013)年11月に宮司の栗原様に案内して頂き、説明を受けました。貴重な文化財、菅原道真の一代記を描いた「北野天神縁起絵」は傷みが激しいとのことで一部しか拝見できませんでした。

北野天神社の講話・案内の依頼は、翌日に節分の儀式を控え無理と思われましたが、禰宜の栗原様が超多忙のところ案内を引き受けて頂きました。

2) 栗原禰宜様は、まず社名のご由緒の説明看板の前に立たれて、「当社の社

名は、物部(もののべ)天神社・国渭地祇(くにいちぎ)神社・天満天神社が正式な名ですが、この三社を合殿(あいどの)に祀るところから、総称として北野天神社と呼ばれています」と説明されました。

由緒によれば、物部天神社・国渭地祇神社は、日本武尊(やまとたけるのみこと)が御東征の折に創建されたものと伝えられ、ともに延喜式内社です。

天満天神社は長徳元年(995)一条天皇の御代に、京都の北野天満宮より、菅原道真公の御分霊を勧請したと伝えられています。

神社拝殿参拝の後、小手指神社から時計回りに稲荷社、八雲神社、



文子天神社、神楽殿、力石、宗良親王在陣跡、神馬(しんめ)等の解説を賜りました。

特に感銘を受けたのは最初に説明を受けた小手指神社です。

小手指神社には航空神社が併設されています。航空神社跡の説明標識には「昭和 13 年 6 月以来航空士官学校内に鎮座し空の守り神として多くの人々の崇敬を集めてまいりました。航空神社は昭和 20 年 8 月の敗戦により米軍の進駐が予期される慌ただし中同年 9 月 3 日 当時航空神社の司祭であった栗原良助が宮司を務める此処(北野神社)に移され 11 月 3 日遷宮の儀戦没者 4950 柱の慰霊祭が厳かに施行された」との記述があります。

### 小手指神社・航空神社



中央白袴・栗原禰宜様



右手奥・移設された白旗塚碑

担当 Bグループ : 茂出木正和 三島昭雄 池田 衛